（廿三日夕刊）

磐城新聞

休刊日 大祭第一第三日曜日
定價（壹枚二錢 壹ヶ月五十錢 郵稅拾錢）
廣告料（雜報欄一行五十錢 場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所 磐城新聞社 電話五六番

發達過程上における（四）
我國無産政黨運動と
その社會學的認識

報知新聞平支局 榎本紀一

無産大衆の階級的共同利害關係への進出といふ點においては大正十四年十二月一日午後五時東京神田キリスト敎青年會館において「全日本の勞働者よ！農民よ！今こそ一切の障害を排して全無産階級の陣營に集まれ！」と宣言し結黨した農民勞働黨はわが國無産政黨史上特筆すべき出來事でなければならない、而してこの農民勞働黨は午後六時萬歳を三唱してその

結黨式を 無事終了したがその組織の背後には共産黨の策動があり名を政黨にかつてはゐるがその實は共産主義の實行を企圖するものであるとの理由によつて內務大臣の訓令によつて同黨の禁止は命せられ幾多の難關を切り拔けて漸くわが國無産政黨の原野に雄々しくも新生を見た農民勞働黨は式後僅かに三十分の生命をもつて夭折してしまつた然しながらその後無産政黨再組織の運動は間斷なく續けられ總同盟農民組合間のあつ轢はあつたが日本勞働組合評議會政治研究會無産青年同盟水平社無産同盟の四團体を除去し現實に立脚した大衆的無産政黨を成立せしめる事になり大正十五年三月五日我國の

國情に卽し 無産階級の政治的經濟的社會的解放を期し特殊階級のみの利害を代表する既成政黨を打破し議會政治の徹底的改造を期すと看板を旗旆とした勞働農民黨は病的症狀の觀ある我國政治界の分野に雄々しくも進出してきたのである然しながらその組織過程において右翼左翼兩者を抱擁する矛盾性は勞働黨將來の發展過程において決して完全なる一致の行動圓滿なる全的發展を想到する事は餘りに不合理であつた果して十月二十四日

芝協調會 館において開かれた勞農黨第四回中央執行委員會において勞働組合總聯合市電自治會司厨同盟官業勞働總同盟は脫退し勞農黨は完全に農民組合の手に乘とつた譯であるが大正十四年結黨以來單一無産政黨は遂に四分五裂の運命に逢着するの餘儀なきに至つたこれと前後して中間階級たる勤勞生活者を共同團結せしめ階級本位の政治經濟制度を建設し特殊階級を代表する既成政黨並社會進化の過程を無視する急進主義の政黨を排すといふ右翼的

政黨組織 を計劃してゐた安部磯雄、堀江歸一、吉野作造三氏等の智識階級は新無産政黨組織をなし去月五日芝協調會館において結黨式をあげた、しかして一方勞働總同盟の勞農黨脫退に心よからず思ふ麻生一部と農民組合の須永三宅の一派は行詰まれる勞農黨と階級意識さへもうろうたる日本農民黨と極右翼政黨たる社會民衆黨との分立は單に支配階級既成政黨をして喜ばしめるのみで左右兩翼何れも口に大衆的無産政黨組織の必要を叫びながら毫も大衆の願望を顧ず徒らに

觀念的闘 爭に沒頭し未だその結成を見ざるに味方の陣營は混亂と墮落に陷れんとしてゐる現狀に無産階級運動正道確立の爆彈を投ぜんとして十二月八日日本勞農黨の結黨式をあげたなほ先に日本農民組合から左翼分子とは提携する事が出來ないとして脫退した平野力三一派の起した全國日本農民組合同盟は四月一日成立を見七月五日日本農民黨組織準備委員會を作り十月十七日芝協調會館に日本農民黨結黨式をあげたがこれは最右翼農民の結成である

磐新顧問
（照合を歡迎す）

（問）借家人が昨年の一月以來家賃を納めず立のきにも應せず遂に訴訟して數日前立のきの判決が有りました。然るに借家人の方では病氣だとか代りの家がないとか云つて未だに立のきません。どうすれば立のきますか　（一家主）

（答）判決があつたとすれば其判決を執行して立のかせることが出來ます。判決を執行する手續きは其判決文と執行文をつけて貰ひこれを執達吏に委任して執行するです

（問）五歲の男子、月に一回は饒虫が肛門からはひ出します。四歲の時から座藥で治療しますが快癒しません方法を敎へて下さい（佐代）

（答）酸を十倍にうすめ三十グラム位一日置きに二三回つづけて灌腸して御覧なさい

（問）顏面が多毛性でこまります脫毛法はないでせうか（山口）

（答）皮膚の表面の毛髮でしたらどうなる脫毛劑でも除去することが出來ます。併し毛根までも破壞する脫毛劑はありませぬ、一旦表面の毛髮を除去することが出來てもやがてまたのびて來ます、身體の毛深いのは遺傳によるものですから藥劑ではどうにもしやうがありませぬ。

明日の吉凶
舊曆六月廿六日
新曆七月廿四日

▲一白 進まんとして進ます相談事は後日にすべし▲二黒 陽氣表に現れざれど思ひ平なれば願は叶ふ▲三碧 目先の利かぬ日約束事は見合す方が勝ち▲四綠 自信强く勞を厭はざれば物事達成すべき日▲五黃 一致結合して事に當れば雜事にも勝つべし▲六白 出先に長居すれば人の口舌を背負ひ込む▲七赤 なすこと圖星に當る手控するは却て損▲八白 意志さへ堅ければ不安も自然と除かるべし▲九紫 遲々たる運氣の次第次第に伸び行く日たり

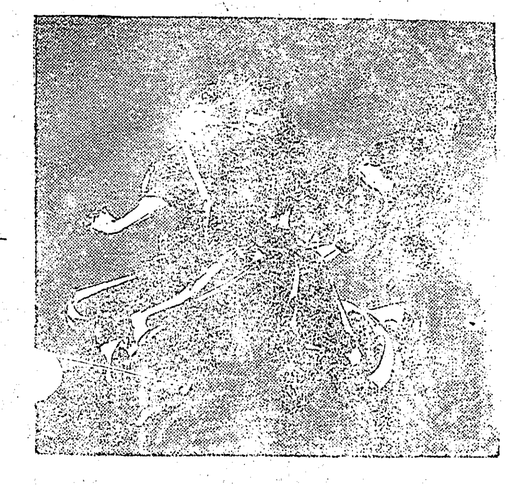
講談

血を洗ふ

(95)

高橋掬太郎創作
布施平八郎揮毫

二人の曲者



心身共に疲れ果てたのか神部清左エ門程の武士も夜か次第に更けるにしたがつて頻りと居眠りを始めた

と、足音を忍ばせて一人の曲者が此の佛間に近ずいた黑裝束に覆面をしてゐるので、何者であるか判らないが佛間に忍ぶといふのは何が目的か首級を盜むためか或は唯一人で宿直してゐる神部清左エ門を狙ふものか、城中といふも油斷のならぬ折柄であつた。曲者は周圍に心を配つて襖を靜かに押し開いた。

佛前の燈明がかすかにゆれて、行燈の灯もほの暗い中に神部清左エ門は不謹愼にも肱枕をして眠つてゐた しかも鼾聲さへ洩してゐた

曲者はニタリと微笑んだ、らしく、眼元の皮がゆるんだ彼は携へてゐた男帶を疊の上に解き延した、そして足音を殺してその上を渡つた

と、その時に、また一人の曲者が此の佛門を窺つた矢張り黑裝束に覆面をしてゐたが、早くも一人の曲者が忍込んでゐるのを見ると彼は意外げに首をかしげて樣子を窺つた。

神部清左エ門は矢張り氣がつかぬやうに鼾聲を立てて眠つてゐた。が、よく見ると鼾聲を立て乍らも瞼が細く動いてゐた。じつと第一の曲者の樣子を見てゐるのであつた。けれど第二の曲者には氣がつかぬやうであつた。

第一のくせ者は行燈の方へ進み寄つた。彼は行燈を吹き消さうとするらしかつたけれど、彼も第二のくせ者に氣がつかぬやうであつた

第二のくせ者も佛間へ忍ぶといふのは如何なる目的であらう。首級を盜むためか神部清左エ門に刄を加へやうとするものか、室内の空氣は次第に險惡化した。

第一のくせ者は行燈の上に顋を突き出した。灯を消さうとするのである。

神部清左エ門はじつと第一のくせ者を見つめてゐたがその眼の色が何んとなく訝かしげに變つた

第二のくせ者は襖の蔭から此の有樣を見てゐたが、氣がついたやうに小柄を拔いた。そして第一のくせ君を狙つたが、考へ直したのか何かうなづいて小柄を元に納めた。

と、第一のくせ者は行燈の灯をフッと吹き消した。突端に

「くせ者ッ！」

と第二のくせ者が叫んだ

「己れッ！」

と神部清左エ門が刎ね起きるや一のくせ者に飛びかかつた。

「わッ！」

と第一のくせ者の氣合、佛前の燭臺が打ち倒れた。闇の中をバタ〳〵とくせ者は逃げた

「くせ者ッ！」

と叫んで清左エ門は暗中から大刀を拾ひあげて後を追つた。その間に第二のくせ者は辷るやうに入つて辷るやうに出て行つた

「くせ者でござる。くせ者でござる」

と、清左エ門は第二のくせ者には氣がつかぬのか、第一のくせ者ばかりを追つた

その物音に驚いて別間に宿直をしてゐた侍達が飛び出して來た。

「御家老、如何なされました」

と彼等は只ならぬ有樣にうろたへ乍ら問ふた

その間にくせ者は雨戸を蹴倒して庭へ逃げ出した

『それ、くせ者が庭へ逃げたぞ』

と、叫んで清左エ門は自分が眞先になつて庭に飛び降りて彼方此方と探したがくせ者の姿は見えなかつた。

「はて、何處へ逃げたのであらう。隨分と足の早ひ奴であるわひ」

と清左エ門は口惜しがつた。

「如何致したのぢや」

と其處へ出て來たのは昌康であつた昌康はまだ起きてゐたらしくきちんと衣服をつけてゐた

株式會社七十七銀行 第九十八期營業報告

負債ノ部

資本金	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
諸準備金	四、三三〇、〇〇〇、〇〇〇
諸預リ金	三六、〇四四、四三一、五三〇
支拂送金爲替手形	八八、九六七、七三〇
他店ヨリ借	九六三、三六八、三四〇
仕拂承諾	五九九、〇六〇、九六〇
未拂配當金	九、〇四四、一四五
未拂利息及未經過割引料	三〇八、六三八、八五〇
行員恩給金	三、五〇八、四二〇
行員身元保證金	五七、一三八、一九〇
本支店間未達勘定	六六八、七一三、九七六
當期純益金	二三〇、二六三、〇二〇
合計	四四、五八五、二〇五、一六一

資產ノ部

拂込未濟資本金	二、六二五、〇〇〇、〇〇〇
諸貸付金及當座預金貸越	二五、二三六、五七〇、九一〇
割引手形及荷付爲替手形	三、六七七、六〇五、五八〇
コールローン	二、二六七、〇〇〇、〇〇〇
雜勘定	三、三六八、七六〇
他店へ貸	三九七、一七五、四六〇
仕拂承諾見返	五九九、〇六〇、九六〇
預ケ金	一、三三一、三六九、四三〇
諸公債證書其他有價證券	三、七六八、〇四六、〇三〇
營業用土地建物什器	七〇一、九五一、九三〇
所有動產不動產	一、〇六九、〇五〇、〇七〇
現金有高	二、八七〇、〇〇六、〇四〇
合計	四四、五八五、二〇五、一六一

第九十八期準備金及利益配當
當期純益金 金貳拾參萬貳百六拾參圓貳錢
之ヲ處分スルコト左ノ如シ

金五萬圓	法定準備金
金貳萬圓	建築資金準備金
金九千圓	役員賞與金
金參千五百圓	行員恩給金
金八萬參千百貳拾五圓	配當金（年七分の割）
金六萬四千六百參拾八圓貳錢	後期繰越金

右之通リニ候也
昭和二年七月十八日
株式會社七十七銀行
頭取 伊澤平左衛門
平支店
支店長 小原長英

世界的日魯漁業會社が
大量製産の結果は
かくの如き安き鑵詰ありや
優良、美味、便利
氷山印鮭鑵詰
特價 金貳拾參錢
平町二丁目
西村屋藥局
長 電話三番

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
平 南町
上田外科醫院
電話一二九

謹告
本日ヨリ第二回
文化納涼園
開催に際し御來客に限り向三日間冷しコーヒー進上致ます
何卒御來遊下さる樣御待申ます
永らくの土曜デーに對し多大な御引立有難く御禮申上ます
續行中の土曜デーも納涼園開催ご同時に終りを告げました。
カフヱータヒラ
平町二丁目（電話六二〇番）

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負 其他
佐藤材木店
常磐線平町 新川町
電話 三三五番

東京の三越來る
七月二十六日、二十七兩日（午前八時半より午後五時半まで）
平町南町元郡會議事堂に於て
吳服、太物、雜貨、洋品、食糧品、特價品 陳列會
每々格別の御引立を辱し有難く御禮申上げます。今般吳服太物雜貨類を豐富に取揃へ陳列販賣致します。何卒御來觀の程願上ます
三越吳服店

仙臺高等工業學校長試驗證明
鐵道省御指定
福島縣廳
世界的
萬年瓦

養蠶經營の改善に
共同出荷の法
秋蠶より理想的に
本郡同業の計劃

石城郡下養蠶同業組合では養蠶經營難の現況に鑑み其組織を根本的に改良する必要ありとなし春蠶繭より共同出荷の縣の奬勵規程に基きこれを實施したが往々遺憾の點があつたので今期秋蠶には

其の徹底 を期する爲め廿二日植田小學校廿三日久之濱小學校に各町村技術員並びに共同出荷組合員等參集の上繭共同出荷に關する打合會を開き春蠶繭當時の弊を改善する事になつたが協議事項は一、共同事業遂行に關する件一、共同出荷場所及買人に關する件外四項で備繭の等級に就へては

採點方法 に依る等級を定め委員を選任する事及び出荷時間を確實に定め事等に就き協議を重ねたが追つて委員は不日會合の上決定をなす筈である

江名町で
漁港築港陳情
實地の調査

石城郡江名町では最近同港が次第に埋沒して漁船の出入する事が出來なくなり繁榮を次第に奪はれるので同町中の作に漁港を築造する計劃であるが廿日縣へ同町の窮狀を訴へ實地踏査方を願ひ出た

未だ餘裕のある
平町の上水道
決して心配はないさ
河野課長の談

平町の上水道は昨今の酷暑に使用水量夥しく水に不足を告げ水道當局では大狼狽し使用制限の宣傳をなしてゐる旨一部に傳へられてゐるが右について河野水道課長は『昨年來實施した工事は當初二萬五千人に供給する基本計劃中の後廻しとなして殘いた部分的の工事を實施し當初の目的通り完成したもので計劃の杜撰など云ふ筈は絶對にない亦配水量は或新聞は冬期平均一日七千石夏期平均一日一萬二千石と傳へてゐるが之れは平均一日の使用水量ではなく最大使用日の配水量なので最高一日の給水し得る水量は一萬七千石であるから未だ相當の餘裕があるので水使用制限の大宣傳をするなどのことは絶對になし』云々

酒造講習會

平税務署管内酒造講習會は來月十六日から十八日まで三日間同署に於て開催されるが縣より講師として鹽入小池兩技師の派遣方を二十二日申請して來た

鐵と砲
（投書歡迎）

惡税

吾人の當然負擔すべき家屋税は以前の戸數割に比し良税であるか否か其長短を比較對照し吾人と共に之を論議し立法府の參考に資せんとするも無益な擧ではあるまいと思ふ。

以前の戸數割は當該町村長の作成せる等差案に對し町村會の審議により決定すべきもので家屋の大小を以て課税の標準としたものでない爲め、貧富の程度納税能力等を裁量する上に比較的公平に等差を査定することが出來た。

今度の家屋税なるものは家屋の現在を店舗、住宅、倉庫、物置と謂ふ樣に或は戸別によつて建坪に對する坪數の算出率は違ふにしても象に現はれた建物を標準とするを以て貧富及び納税能力などは問題でなく最も不幸を見ねばならぬものは縣下を占むる處の養蠶家であると謂わねばなるまい。

此養蠶家なるものゝ建設物には飼育室及び貯桑場としての倉庫蠶具類の納屋上簇室降雨に備ふる桑場裝置等實に收益に依る比率を度外に置て他の營業者及び田作農家より多くの建物を必要とすることであるこれ等建設物にそれ〲所定の算出率によつて坪數を算定し課税さるゝものとなるので吾養蠶家より見る家屋税なるものは從來賦課されたる戸數割より不公平極まる惡税であると叫ばねばならぬことになる。

吾人は此所に現在の家屋税制定法に更に戸數割制度を加味せしめたる折衷主義による税制確立を希望し一面吾養蠶家諸士の覺醒を促し以て税制の改善を期すべく輿論の喚起を俟つものである（義峰）

石城郡下の
度量衡檢査
左記日割で

石城郡内町村の度量衡器檢査

△八月十五日川前村△十六日上小川村、下小川村△十七日大野村△十八日大浦村△十九日草野村△二十日神谷村△廿一日夏井村△廿二日豐間村△廿三日高久村△廿四日飯野村△廿五日平窪村△廿六日、廿七日赤井村△廿八日永戸、箕輪△廿九日澤渡、三阪村△卅一日、九月一日好間村△二日から四日まで内郷村△五、六兩日磐崎村△七、八日江名村△九日玉川、鹿島村△十日泉村△十一日渡邊村△十二十三日植田町△十四日山田村△十五日錦村△十六、十七日勿來町△十八日川部村△十九日田人、石住、貝沼、荷路夫村△二十二、十一日上遠野△廿二日入遠野村

床屋の女弟子が
病氣を苦に自殺
川前村生れの女が
主人の二階間で

石城郡川前村大字瀬戸寅松二女澤田マスエ（一五）は水戸市上市柵町理髪業高橋由之介方で二十二日夜十二時頃鹽酸をねん下死を計つたが直家人に發見され原醫師を招ぎ下劑注射を加へた

爲一命は 取止めた原因に付いて水戸署より係員出張詳細の取調をした此種接客業に從事する者は最初醫者の健康診斷を受けなければならないマスエが高橋方に來たのは約一年四ケ月前で其の檢査の際醫師から『少し左の肺が惡い』と言はれた言葉がやゝはらかい少女の胸を衝いたそして其の瞬間から前途が眞ッ暗くなつたやうに感じたそうしてゐると同夜十時頃主人がマスエの剃刀を檢査すると刄がこぼれてゐるのを發見したのでいたく叱られ『そんなものを使つたらお客がなくなつて仕舞ふぞ』と叱言を言はれたのを苦にし自殺を企たものだがマスエの實姉マメジ（三三）と同家の徒弟となつて居り

其縁故で マスエも雇はれた者で姉のマメジは『あの子はほんとに強情で短氣なのですその晩も主人から小言を言はれて不平を言つてゐましたが私も知らないふりをしてゐたので一言も言葉を交しませんそして入浴してゐると毒を嚥んだといふので驅け上つて行つたのです』と語つてゐた

時計專門に
盗むで豪遊
竹次逮捕さる

石城郡磐崎村西郷當時住所不定無職井出竹次（二七）は去る三月窃盗罪で平刑務所を出獄し以來屢々湯本町の飲食店に出入し豪遊を極めて居たが金の出所に疑ひを容れた平署で取調べの結果包み切れず江名町大和田醤油店より懷中時計を窃取し外時計專門に八ケ所に亘り荒し廻り全部遊興消費した事を逐一自白した

アルプスより

店員數名を伴ひアルプス踏破を試み天狗の仲間入を致し候、天上我獨りの高峰に雪溪を眺め深林に駒鳥カッスー鳥の聲を肴に美酒を酌み、雪解けの冷水に渇を醫して道なき山を行く其の雄大なる極は塵界の俗腸を十分に洗い落し申候

山五日うまや路
戀し日暮なり
雲か山近くに
遠し燒ヶ岳

七月十七日　藤掛十一郎

磐城新聞社御中

『直江の[illegible]』阪東プロダクション[illegible]伏見直江のあやめ

磐崎農實總會
併せて養蠶講話會も

石城郡磐崎村農事實行組合總會は廿三日午前十時より同村小學校に於て開き午後一時より養蠶講話會に移り成田技手出張すると

夏休みの兒童を
善導の新計劃
夏井村の各寺院が
夏期學校の施設

石城郡赤井村の如來寺、安養院、安祥院、東福院など各宗寺院では今回聯合して華光會なる敎化團体を組織しこれが主催となり、夏井夏期學校を設け村の小學兒童のやゝもすればなまけがちな暑休暇に宗敎々育をするとゝもに夏井小學校や同村出身の大學專門校の學生連と連絡をとり二年生以下の兒童には伽噺會を催し三年生以上には温習科、受驗料、公民科を設けて兒童の靈的敎育と二十歲以下の青年處女の公民敎育を施す事になつたが會期は七月三十一日から八月一日までゝ授業料は同校開設の趣旨に基づいて無料であると

植田の獵友
來月中旬に

植田町獵友會では東京射擊大家岩崎喜太郎氏小野秀馬氏等の後援を得て一千圓の豫算を以つて大々的に來月十二三の兩日勿來町海岸に全國納涼射擊大會を催す事になり尚十四日は鮫川河口に於て獵友水上大遊覽及地曳網の餘興をなすべき計畫で目下幹事連奔走中にある

喧嘩になり相な
社宅の課税問題
知事を相手に訴訟か
石城各炭礦起つ

坑夫長屋及社宅に對する不當課税に關し石城の五大炭礦を代表し青沼磐炭、吉田入山兩社學務部長が過般出福半井内務部長及び税務當局と會見懇談したる旨既報の如く縣當局でも夫々考慮中であるが右に關して決定權を有する内務省は『礦山の納屋及び社宅は直接礦業用の工作物として家屋税を免除するも礦山職員の社宅は大体に於て直接礦業用の工作物と認める譯には行かない普通一般の住宅と同樣課税物件と認むべきである』と決定し礦山業者とその見解を異にするので礦山業者は該内務省の決定を違法と見做し全國的に地方長官を相手取行政訴訟を提起すると云ふ險惡な雲行であると

公賣公告

東京市北豐島郡南千住町大字地方橋一二五一

滯納者
鳳城炭礦株式會社

第一號
福島縣石城郡山田村地内
福島縣採掘登錄第七二號石炭鑛區拾七萬壹千參百坪採掘鑛業權外六ケ所鑛區坪數百五拾七萬六千四百四拾八坪採掘鑛業權

第二號
福島石城郡植田町大字植田字館山二ノ二
山林反別九畝拾六歩
外山林原野畑參百四拾筆

右國税滯納ニ付前記財産昭和二年八月九日平税務署ニ於テ入札ヲ以テ公賣ニ付ス買受望ノ者ハ當署ニ就キ詳細承合ノ上入札ヲ爲スヘシ

右公告ス

昭和二年七月廿二日

平税務署長

郡教育部會で
北海道親察
九月中七日間

石城郡教育部會では本年度の教育視察を北海道地方と定め九月中の五日間一人に付五十圓を補助し三名を派遣する筈で各町村の希望を集めてゐるが右希望多數の場合は會長の意見で選定の由で同申込は平第一小學校内同會宛來る八月末日限りであると

大体は無競爭に
委員顔觸れ決定
競爭は平窪外二三ケ村
今明中全部決定

石城郡内の土地賃貸價格調査委員選擧は例の超政黨的なやり方をまねて各町村とも大体無競爭で終るらしく競爭のあるのは平窪、その他二三ケ町村と見られてゐる二十二日迄決定した候補者の顔ぶれは左の如くであるが今明中に決定するらしい

（小名濱）飯塚榮一郎（植田）古川傳一（泉）江尻博孝（錦）金成通（山田）安島重三郎（上遠野）赤坂毅一（田人）小宅幸三（川邊）水野貞清（平窪）松本德一 松崎松次（內郷）菅波忠治（草野）高岡唯一郎（大浦）木村清治（神谷）長壽男

平町有財産の
處分委員會
けふ町役場で

平町役場では町有財産處分の委員會を廿三日午前十時より同町役場に於て開き舊磐中不用校舍及不用敷地の公賣方其の他を附議した

幼い犠牲
水の誘惑に
親子の注意

石城郡好間村大字下好間農清五郎庶子鈴木保（二ッ）は廿二日午前八時半頃姉まつい（一六）と共に同村好間江筋附近で遊んでゐるうち姉が同人の側を離れた際誤つて川中に顛落溺死し　岩瀬郡廣瀬村白子澤生れ赤井村赤井石田忠治の長女ハツエ（四ッ）は廿二日午後四時半頃赤井煉瓦工場構内に遊戲中用水池に誤つて落ち溺死

◎新案屋上賭博◎
小名濱の魚屋外二名
平署に捕はる

小名濱町下町魚行商馬上勝治（三六）外二名は廿二日午後四時頃同町軌道會社停留所の軌道第六號車の屋根の上に於て金錢賭博開帳中平署刑事に逮捕された

平町青年團で
小名に清遊
あすの日曜に

平町青年團では明二十四日の日曜をトして團員一同小名濱町に於て海水浴をなすことになつた

明日休刊

かみえど

◇夏分になると頭がボヤッとするせいか誰でも忘れ物をするので、扇子やハンカチは一度ぎりの消耗品みたいなものだが、ヒドイのになると腰卷や猿股まで忘れるのだからトンダ家庭安を害するやうな事が出來する、ナアニ醉つぱらつては自分の身體まで忘れるのがあるよ　アラそんなこといつて、妾との約束をフイにしようと思つたつて駄目よ仲家のノンベイが曰くサ、北海道のお客はそれは親切なものよ妾が風邪を引いて休んだら大きな菓子箱をお見舞にくれたの、それを開いたらマアどうでしよう、とてもお可笑いものが這入つてゐたのよアラ御冗談でしよう、ソレで風邪も癒つたろうなんて、オヤ新田町にはモット親切な人があるわ……ですとさア

明日の天氣
西南の風
晴

營業所新設紀念
平 四倉 間 乘合 自動車割引
今般平町二丁目平銀行前に營業所新設記念として當新設營業所より御乘車の御方に限り
平 四倉迄 片道 金貳拾錢
平町
尼子自動車部
電話二三〇番

拜啓時下酷暑之候各位益々御健勝之段奉大賀候扨弊店儀毎々御引立を蒙り難有御厚禮申上候就きましては土用鰻大賣出致候間多少に不拘御用命御願申上候
御一人前
一 鰻蒲燒（金壹圓、壹圓廿錢、壹圓五十錢）
一 うなぎ丼（金六拾錢、金八拾錢、金壹圓也）
田町七三
壽々喜亭
（電五八番）

金牌一等賞受領
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番
◎徒弟入用
徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候

平町 紺屋町
吉田眼科醫院

居乍らに萬斛の涼味
扇風機月賦販賣
三月拂十二吋頸振（一回目十一圓 二回目十圓 三回目十圓）
灼熱の眞夏が
近付きました
事務所のテーブルの上に……
商家の店頭に……
可愛い子さん方の爲にも
各御家庭に一臺は是非お備へ下さい
モーター扇風機の修繕も致します。
電機機械
平町白銀町九番地
日東商會
電話六五〇